

うちのお巡りさん

駐在所は今

「庭の山野草が盗まれた」。

長野原町の長野原署北軽井沢駐在所に、地元の70代女性がから相談が舞い込んだことがあった。

山本健太警部補(37)は当時、女性の恐怖感を案じて何度も女性宅に通い、顔を覚えてもらいつつ警戒を強化。パトカーで回る姿を犯人だけでなく女性にも見えるようにした。後に「ありがとうね」と声をかけてくれた女性の表情は、発生当初より柔らかかった。

北海道函館市出身。ドラマ「はぐれ刑事」などに憧れ、高崎経済大の卒業を前に県警を受験した。交番勤務を経て、暴力団犯罪などの刑事警察に

長野原署北軽井沢駐在所

山本 健太警部補(37)



山本警部補は11月11日、長野原町北軽井沢街を巡回する

【地元のおすすめ】 冷涼な気候を生かした高原野菜、特にトウモロコシは北海道産に負けない甘さです。生でもいけます。刑事時代の不摂生で太ってしまい、キャベツで腹を膨らませて炭水化物を抑えるようにして1年半で40kg減量しました。シャキシャキでいくらでも食べられます。

巡回重ね住民と距離近く

8年携わった。駐在所は管内で起きたどの分野の事件事故、相談にも関わる。異動当初は初の駐在勤

務に不安もあったが、地元の人々が解消してくれた。イノシシやクマをさばくところを見せられたり、飲みに行っ

たりするうち「駐在さん」から「山本さん」に変わった。勤務4年目の現在、子どもは地元の保育園に通っている。

「自分も住民の一人。距離が近い」。3交代制の交番と、駐在所の違いをそう話す。標高1100m以上の北軽井沢は時に氷点下15度にもなる。「函館より寒い、雪の多さにまだ慣れませんけど」と笑

る。別荘で余生を送ろうと都会から引つ込む人もいる。周囲に定住者が少なくなりがちのため、孤立しないよう気を配る。人の動きが見えるのは、日頃築いた住民との信頼関係と、変化に気付けるだけのパトロールの積み重ねがあるからだ。全国的には空き別荘のポストが違法薬物の受け渡しに使われたこともあり、地域を狙う犯罪の抑止に目を光らせる。

住民は高齢者が多い。酪農に使う大型トラクターが行き交う半面、歩道のない道が多いという。交通安全と特殊詐欺への注意の呼びかけにも力を入れている。